

緑のセンターだより



No.150

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 26 年 10 月 1 日

講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「庭木の冬囲い」（実習）

とき 平成 26 年 10 月 19 日（日）
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 公園緑地協会職員



「雪吊りの基礎」基礎 - 実習

とき 平成 26 年 10 月 25 日（土）
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 公園緑地協会職員



「庭木の冬囲い」常磐公園管理棟（実習）

とき 平成 26 年 10 月 26 日（日）
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 公園緑地協会職員



「果樹の剪定と栽培管理」ブドウと小果樹

とき 平成 26 年 11 月 7 日（金）
午後 1：30～3：30 定員 50 名
講師 上川農業改良普及センター
専門普及指導員 松谷智美さん



「押花カレンダーを作ろう」教材費 ¥500

とき 平成 26 年 11 月 16 日（日）（実習）
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 押花サークルつくしんぼ代表 加藤迪子さん



New

「温室で写真教室」

カメラ持参



10月25日（土）13：30～15：30
講師：北海道写真協会 定員 20 名
旭川支部長 馬場和美さん



第 30 回「旭川市の公園絵画展」10 月 11 日（土）～13 日（祝月）イオンモール旭川西
☆「ペットボトルの寄せ植え」無料体験講習会を開催します！
日時：10 月 11 日（土）①9 時～②13 時～各先着 25 名様



X'mas からお正月の寄せ植え
12 月 7 日 13：30～15：30
フラワーマスター 山本裕美さん
定員 20 名 教材費 ¥2000

展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

「旭川市の公園絵画展」 11 月 5 日～ 9 日
「木の実・草の実写真展」 11 月 13 日～30 日



桜のトンネルプロジェクト

桜の植樹会

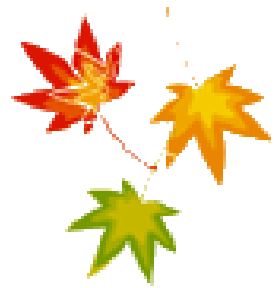
10 月 19 日（日）10 時～12 時
募集数：団体 3 組、個人 20 名
参加料：無料（作業できる服装）
募集期間：9 月 20 日～10 月 3 日
集合場所：公園河川敷沿い駐車場

【休館日のご案内】

4 月～10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。（祝日の場合は翌日）
11 月～ 3 月は毎週月曜日が休館日です。（ " ）

<園芸の基礎知識> 植物の葉

～紅葉のしくみ～



国内で最も早い紅葉を楽しめる大雪山連峰では、9月中旬～下旬に紅葉のピークを迎え、紅葉前線は徐々に南下します。旭川近郊では10月上旬～中旬に見ごろを迎えられそうです。

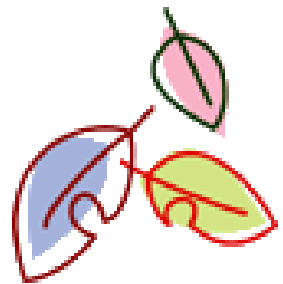
今年は色鮮やかな紅葉が期待されていますが、紅葉の仕組みを考えてみましょう。

- (1) **紅葉** 一般に落葉樹の紅葉が鮮やかで、モミジ類、カエデ類、ナナマカドなどに代表されます。色どりは赤色「紅葉(こうよう)」、黄色「黄葉(こうよう、おうよう)」、褐色「褐葉(かつよう)」などに分類されますが、いずれも「紅葉」として扱われています。
- (2) **紅葉のメカニズム** 葉に含まれている色素には緑色のクロロフィルと黄色のカロチノイドがあります。秋になって気温が低くなると葉の働きが弱まり、クロロフィルが分解し、隠されていたカロチノイドの色が目立って黄色になります。また、光合成で生産された糖が葉に溜まり、この糖から赤い色素のアントシアニンができて赤く変化します。
- (3) **美しい紅葉** 鮮やかに紅葉するには、日中の気温が20～25℃、夜間は5～10℃になって寒暖の差が大きく、澄んだ空気、十分な日光、適度な湿度によって美しい紅葉になります。
- (4) **美しく紅葉する植物**

紅葉(イロハモミジ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、サトウカエデ、ニシキギ、ツリバナ、ツタウルシ、ヤマツツジ、レンゲツツジ、ドウダンツツジ、ツタ、ヤマブドウ、ヤマザクラ、コマユミ、ナナカマド、カンボク、タラノキ、ミズキ等)

黄葉(イチヨウ、シラカバ、ヤナギ、ポプラ、ドロノキ、ハルニレ、イタヤカエデ、ツルウメモドキ、ノリウツギ、カラマツ等)

褐葉(ブナ、ミズナラ、カシワ、メタセコイヤ、ケヤキ、トチノキ等)



緑の相談 Q アンド A (24)

グラジオラスの球根を今年の春に購入して庭に植えました。球根はどうすれば良いのでしょうか、教えて下さい。

グラジオラスは寒さに弱いので、秋(9月末～10月上旬)球根を掘り上げて翌年の春まで貯蔵します。



- 1 葉が黄色く枯れてきたら球根を掘り上げて、1ヶ月程度乾燥させます。
- 2 乾燥を始める前に「球根腐敗病」を防ぐため、剝菌剤による球根消毒をお勧めします。
- 3 今年植えた古球と根は捨てます。
- 4 古球の上に新たにできた新球とそのまわりにできた木子(きご)を分けます。
(木子は1cm以下のものは発芽しにくいので除きます)
- 5 球根は0℃以下になると枯れますので、凍らせないように貯蔵します。
- 6 空気の通る紙袋やネットに入れて貯蔵します。

植物の病害虫

その２１ 「さび病（白さび病）」



ネギのさび病



シャリンバイのさび病



キクの白さび病

１ 寄主範囲

野菜(シソ、インゲン、エンドウ、ネギ、アスパラガスなど)、草花(ペゴニア、キクなど)、花木(ツツジ、サツキ、アジサイなど)、果樹(ぶどう、ビワなど)など多くの植物に寄生します。

２ 病 徴

植物体によって菌種や病徴は少し異なります。野菜などでは、はじめ白い小斑点を生じ、やがてその部分が盛り上がってきて褐色の小斑点になり、表皮が破れて黄、赤褐色の粉末が飛び散るようになります。ぶどうでは葉裏にオレンジ色のさび状粉(夏孢子)があらわれ、10月頃になって気温が下がってくると角張った褐色～黒色のかさぶた状のもの(冬孢子堆)が葉裏の表皮下に形成されます。

発病が激しい場合は葉全体をさび状粉が覆い、葉が巻きあがるようにして枯死します。

３ 伝染経路

主に空気感染します。罹病葉上の冬孢子、または植物組織内の菌糸で越冬し、翌春の伝染源になります。冬孢子は発芽して小生子を形成し、これが風で飛散して伝搬します。一次感染の後、夏孢子が適湿を得て発芽したのち、植物体に侵入感染します。7～15日の潜伏期間を経て夏孢子堆を生じ、18～28℃の多湿環境で蔓延しますが、30℃以上の高温で乾燥する時は拡がりません。

４ 発生環境

多湿環境で多発します。冬孢子の発芽適温は18～28℃、小生子の形成適温は12～22℃です。

小生子は光が当たると形成されません。

５ 防除法

- (1)キクなどで根分けする場合には健全株から行ないます。苗は無病の株から採集します。
- (2)窒素過多にすると発病しやすいので、適正な肥培管理を行います。
- (3)畑の排水を改善します。
- (4)施設内では多湿にならないよう換気をします。
- (5)罹病株は伝染源となるので抜き取って処分します。
- (6)発生初期から薬剤散布します。

スズランの株分け・植替え

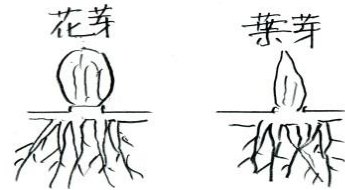
スズランは北海道に自生するものと、ヨーロッパに自生するドイツスズランがあります。現在一般に栽培されているのは殆どがドイツスズランです。北海道に自生するスズランより、繁殖力が旺盛で花は大輪で、花付きもよく香りも良いとされています。

庭植えして4～5年も経過すると根は四方に張り、葉も密生するので株分けして植替えが必要となります

時期：9月に入ると来年咲く花芽が出来上がり、葉も枯れてきます。9月末から10月に作業を行います。



株分け：スコップで株を掘り上げ、土を落として芽を確認しましょう。先に丸味があり大きいものは花芽（来年花となる）、先が細長く小さいものが葉芽です。花芽と葉芽に分け、植え付けには花芽を使います。



植付け：植え場所は日当たり良く、排水・通気性の良い場所を選びましょう。

植え場所には、堆肥または腐葉土を十分に入れリン酸を主体にした施肥をします。

植付けは4～5芽を一株として15cm間隔位に植えます。植付け深は、芽がかくれる程度の浅植えとします。

スズランは肥料を大変好むので、翌春の萌芽時と開花前後に施肥しましょう。

（スズランは全草に毒を含んでおり、特に花や根には多く含まれているので注意しましょう）

展示室の植物（57）

アカリファ（キャッツテール）

トウダイグサ科アカリファ属（エノキグサ属）

インド原産の匍匐性の常緑多年草で、花色は赤が中心で猫の尻尾のような花穂を付けます。温度と日照があれば一年中花を咲かせることも可能です。日陰では徒長して花つきも悪くなります。

熱帯植物なので暑さ・乾燥には強いですが、寒さには弱く最低5℃以上の温度確保が必要です。

伸び過ぎたときには、切り戻しを行い草姿を整えます。切り戻しの茎を使って挿し木で増やすことができます。

